

みなさま、こんにちは。只今ご紹介に預かりました、女子聖学院中学校1年に娘がおります、と申します。私は現在、父親の有志による活動団体「パパプロ」に所属しています。

先日の記念祭では、受験生対象の「文房具づかみ」などのブースに、緑のジャンパーを着ていたおじさん集団がいたのに気づかれた方も多いかと思います。それです。コロナ前は、記念祭では、チヂミを焼いたりしていたようですが、コロナ禍では、残念ながら以前のような活動は難しい状況ですね。それでも、先月は、恒例行事の、高校3年生激励の焼き芋会を行いました。私は残念ながら参加できなかったのですが、朝から何時間も掛けて作った焼き芋を、高校三年生のひとりひとりに手渡したそうです。

パパプロは、「娘達の笑顔のために」を合言葉に、学校行事やPTA行事のお手伝いのほか、独自の自主企画を行っています。来年ご入学の暁には、ぜひお父様、ご一緒いたしませんか。女子聖学院は、このような活動を受け入れ、一緒に娘たちの成長を応援する、懐の広い学校であることを日々実感しています。

昨年この時期、私もこの入試体験会、娘に同行しまして、みなさんと同じようにそちら側に座ってました。その日も寒い1日でしたが、あまり防寒対策しないできてしまいました、「あー寒いな、教室は温かいのかなあ」とか思いながら、お話をきいていました。

昨年も、1年生のお父さんが登壇されて、お話ししてくださったんですが、まさか、1年後に私がお父さんの立場になって、こうしてお話するとは、なにか不思議な感じがしています。なにぶん不慣れなものですから、お聞き苦しいところなどあるかもしれませんが、親の立場で、日頃感じていること、また受験時の様子などを、お伝えしたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

志望理由

1 女子聖を知ったきっかけ

学習塾、我が家は日能研でしたが、そちらで配布している進学関係の雑誌(ネッティランド)か、学校のパンフレットだったように記憶しています。娘の上に2人息子がおりまして、それぞれ中学受験しているのですが、2人共男子校で、当然ながら女子校にはご縁がなく、また、我が家は無宗教なものですから、当初はそれほど意識していませんでした。それでも、上2人のときの中学校の知識とは異なりますので、通学できる範囲で、かつ学力的に見合う学校を広く調べようと思っていましたので、なんとなく気になったというところだったと思います。

2 女子聖に初めて来校したときの印象

初めて女子聖にきたのは、確か、5年生のとき、女子聖の夏の体験会(2019.7.13)だったと思

います。

まず、クローソンホールがとても明るくてきれいで、なおかつ、おごそかな雰囲気もあり、良い印象を持ちました。

体験会で、娘はチアリーディングと吹奏楽部をそれぞれ体験させていただいたのですが、チア部では、先輩たちの明るさや親しみやすさ、吹奏楽部では(娘は楽器の経験もないのですが)やさしく丁寧に教えてくれたところなどに、親子3人とも、好印象でした。普段の学校での生活は、先生方に穏やかに見守られているのだなと感じました。

3 女子聖を志望した理由

説明会でのことですが、校長先生の、聖書の話から始まった穏やかなお話は、それまで参加した色々な学校の説明会とは異なっていました。目先の学力や進学率に特化した狭い視点ではなく、人としての成長に主眼が置かれているなあと感じました。

多くの学校の説明会では、卒業後の進学先や進学率、受験までのコースがまずありきで、そこまでの期間として学校生活をどのようにプログラムを組んで知力体力を身につけていくかというものが多印象でした。

一方、女子聖では、人として生きる力を身につけるために、どのように育てていくか?という視点から大人になる基盤というか、自ら考え、語る言葉を持つ人を育てること、などに主眼を置いていることに、とても共感できました。

この学校なら、大学受験に向けての一辺倒な管理教育ではなく、娘のもつ力を尊重して自己肯定感を高め、のびのびと娘の一生を基礎づける教育をしていってもらえるのではと思いました。

また、説明会での卒業生からのお話や、体験会でガイドしてくれる生徒や卒業生と話をしてみると、皆さんのプレゼンや説明が実に上手なんですよね。話の内容が優れているということだけでなく、話し方というか、自然にこちらの気持ちをつかむような雰囲気をまとっていると云いますか、高度なコミュニケーション力を感ずります。

これは、同じようにお感じの方もいらっしゃると思いますが、職場などで多くの他人と力を合わせて一つのことを進めていくには、学力や体力に加えて、コミュニケーション力がとても大事ですよね。相手の状況を理解し共感して、相手に伝わるようにお話すること、この力というのは、そうしようと思ったからといってそう簡単に身につくものではないと思います。

この学校の「Be a Messenger」という教育、6年間で着実に身につくように丁寧な指導がなされているんだろうと感じたことも大きな志望理由になりました。

4 女子聖を受験した時のエピソード

上に2人息子がおります。一番上は、親としても初めての受験ということから、わからないことだらけ、塾のアドバイスを受けながらこちらも前のめりになって、文化祭巡りしたり、

模擬試験の結果を受けてもっと頑張れーと発破かけたり、だいぶゴリゴリやったように思います。本人は、早い段階で自分の行きたい学校というのが明確でしたが、私はもっと難関校を薦めて、衝突したこともありました。こちらは、理屈でいろいろ言うのですが、小学生の本人は志望理由なんてそんなにうまく話せないですね。親の期待に応えたい気持ちと、自分の気持ちの間で、悩ませることになってしまい、強く反省しました。

やっぱり、本人の行く学校ですから、どんなに拙い言葉であっても、その気持ちを尊重して応援するしかないなあと切り替えまして、次男のときからは、もう適当です。

2人共、勉強の方は塾におまかせで、というのも口をだすと喧嘩になってしまうようなところもありまして、こちらはもっぱら精神状態を安定させたり、モチベーションを高める後方支援といったところでした。娘については、2人の経験から、多くの学校を早い時期から見学に行き、いくつも候補をあげていたのですが、なかなか本人の学力が候補に追いつかない状況がつづきまして、やきもきしました。娘は、長所でも短所でもあるのですが、あまりそんな状況に動じなく、なんとかなるでしょうという感じでいましたので、私達も、1月の受験校で合格をいただいていたということもあり、まあだいじょうぶかなあなんて、ちょっとのんびり構えていました。

最後まで、女子聖ともう一校が進学希望でしたが、2月1日受験した女子聖ともう一校は残念ながらどちらも不合格でした。これまで、のんきにしていましたので、あーという感じでしたね、

今年の2月1日はとても寒い朝で、最初、受験校までバスで行ったのですが、同行した妻によると、娘はバス中で口数少なくいつもと違う感じだったようです。どうやら緊張と寒さでバスに酔ってしまったようでした。

女子聖に午後受験に向かう時になって、実は朝は気持ちが悪かったのだと言っていたそうです。

その影響からか、1日目は残念ながら合格できませんでした。その日の夜は家族全員で娘を励ましながらも、さすがの「のんき娘」も凹んでいまして、家庭は重たい空気に包まれました。

2日目で受験の雰囲気になれたこともあったのか、開き直ったのかわかりませんが、1日より2日の方が体調も良く受験でき、合格することができました。

もう一つの受験校については、その後も受けたのですが結果は得られませんでした。娘によると、そちらの方に行きたい希望があったというよりも、最後まで受けてしっかり結果を受け止めたいと思ったということで、我が娘ながら感心しました。

5 入学して感じていること。

英語の単語テストで練習して行って良い点を取って褒められたり、主の祈りを暗記して行って褒められたり、また、レポートや「ポスターセッション」などこれまで、自分の考えをまとめて作成することに苦手意識を持っていたものを、宿題として向き合い、それなりのものを完成させることができたことなど、そういう小さな成功を積み重ねる事が自信に繋がっていているように感じます。

まだ、自ら積極的に手をあげて役を引き受けるという事まではできませんが、これから少しずつ責任ある役も進んで引き受けて大きな成長へと繋げて行ってほしいと願っています。ボディパーカッションコンクールでは、クラスみんなで、本番に向けて何度も何度も練習を繰り返して、家に帰れば「大変だ」「面倒だ」と文句を言いながらも、気がつけばなにかというハンドクラップ。入賞はしませんでした。クラスの仲間と一つのことを作り上げる体験を通じて、得たものは少なくないだろうと思っています。

コロナの影響で、楽しみにしていた運動会が中止となり部活も制限されて、先輩後輩として縦のコミュニケーションのチャンスを失う事になっています。運動会の事前練習では、高校生の先輩たちと交流する機会があり、運動会の伝統などの話を聞いて、とても楽しみにしていました。そういった中高一貫校の良い恵みを十分に享受できないまま、時間が過ぎてしまいかわいそうに思います。

先日の記念祭では、同じ部活の先輩の演技発表を間近で見たり、短い会話を交わしたりした事が、大人が思うよりずっと大切なことで、良い刺激となっているようです。本当に記念祭が実施できて良かったと思っています。

7 最後に受験生の保護者の方へ一言お願い致します。

入学すぐにクラスみんなと仲良くなって、毎日本当に楽しそうに学校に通っています。もちろん、クラスメイトと些細なトラブルがあったり、テストでうまくいかなかったりと、楽しい場面ばかりではなさそうですが、それも含めて、(コロナ禍の制限はあるものの)学校生活を満喫しています。学校では先生方だけでなく、PTAのみなさんやパパプロなど多くの大人が関わり、娘たちをおおらかに見守ってくださっていて、安心して娘を毎日送り出しています。

これからの2ヶ月、寒さも本格的になってまいります。今後の感染状況など心配な面もありますが、どうぞお嬢さま、ご家族の皆様がご健康に過ごされ、余す事なく力を発揮され、爽やかに希望あふれる春をご一緒に迎えられることをお祈り申し上げまして結びの言葉といたします。